

民間防衛警報

空襲警報:
音程が約1分間、上下する。



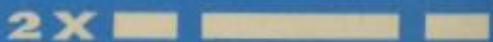
空襲警報解除:
約1分間の一定音



放射性降下物注意報:
6回の短いサイレン信号で、
全体で約2分。



放射性降下物警報:
長短のサイレン信号の2回の
繰り返して、約3分間。



もし
戦争が
起きたら



首相発行

このブックレットを保存する事

コペンハーゲン, エグモント H ペーターセン

戦争が起きたら

戦争の危険性は根絶できない。人類の歴史を通して存在してきて、新たな戦争の災厄が起きないように国連やあらゆる場所で、我々や他国が全力を挙げようとも、いまなお脅威として存在している。戦争の帰結から我々を守る備えをすることが、我々の責務である。今日、核戦争の可能性があるが、超大国の指導者たちは核戦争の恐ろしい結末を知っており、核兵器だけから自らを守ればいいというわけではないことを我々は知っている。

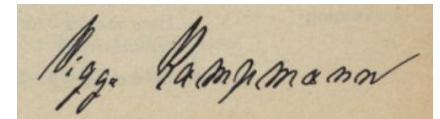
現代の兵器は、わが国が直接的に攻撃されなくても、わが国に直撃する可能性があり、これらの兵器は民間目標と軍事目標を区別しない。新たな戦争は総力戦であり、攻撃者はプロパガンダに頼って、恐怖とパニックを起こそうとする。

我々の軍事防衛は新たな状況下での効果的防衛のために訓練されており、我々はNATOの加盟国として、これまでになかった外部支援を保証されている。しかし、国民は、どのような事態に陥り、どのようにして防護するのか知っておかなければならない。国民と国家の生存可能性は、おおよそ、平時において戦時に備える国民一人一人にかかっている。

強い備えは国民一人一人にとって必要なだけでなく、潜在的な攻撃者が、わが国を征服できる可能性を評価することに関しても有益である。

このブックレットは、だれもができること、なすべきことについて書いている。したがって、このブックレットを世に、この助言とガイダンスについて議論し、皆さんと家族の手の届くところに保管して、皆さんと愛する人々を守ろう。このブックレットには誰もが知る必要のある基本的な規則が書かれている。

首相 1962年1月
ヴィゴ・カンブマン



目次

国内の敵	第5列を警戒する	4
	常に情報を把握する	4
	噂と偽命令を知る	4

旧兵器と新兵器	爆弾と焼夷弾	6
	原爆と水爆	6
	新兵器の破壊の範囲	7
	マスタードガスと神経ガスと精神ガス	9
	生物兵器	9

警報と防護	民間防衛が備えること	10
	空襲警報と放射性降下物警報と 動員警報	11
	民間防衛補助サービス	12
	応急処置と消火を学ぶ	13

シェルター	シェルターは大きな可能性	14
	放射能から最も防護できる場所	15
	シェルターの種類	16

シェルター備品	8日分の非常用備蓄	21
	救急用品	21
	その他の備品	22

避難	自主避難と共生避難	23
	集合と支援と宿泊	24
	持って行くもの	24

攻撃を受けたら	ただちに避難する	25
	シェルターにたどり着けないとき	25
	閉じ込められた人の救助と消火	27
	支援の方法	27
	放射性降下物対策	27
	農場主と放射性降下物	29
	ガス兵器と生物兵器に対する防護	30

動員	防衛に限らない	31
	大きな努力と大きな機会	31

国内の敵

攻撃者が適切と考える兵器を使って戦争が起きる。最も恐ろしい兵器が使われることも考えられるが、敵がそのような兵器の使用を制限する可能性が高い。戦争の手段の幅は非常に大きい。個人にとっては、あらゆる状況で身を守るための備えをしておくのが現実的である。

敵は、実際に戦闘行動をとる前に、混乱を起こし、戦意を喪失させようとするだろう。敵は、プロパガンダや嘘情報や破壊工作や第5列活動で、民間人に働きかけるだろう。敵は、政府や隣人に対する信頼や、防衛や国や個人の生存能力に対する自信を弱めようとする。敵は、直ちに降伏させようと、優しく誘惑したり、暴力と破壊の脅威で恫喝したりする。

情報を入手し続け、パニックを起こさない。

誰もがこの心理戦を警戒し、我々を弱体化させる効果との戦いに参加しなければならない。

不安や疑念や噂や誤情報と戦う山稜の手段として、正しく迅速なニュース報道を維持しなければならない。

新聞は可能な限り発行し続けられる。政府当局及び可能な限りニュース報道を維持する特別任務にあたる人々によって、ラジオは可能な限り頻繁に、情報と指示を放送する。どこにいても情報を入手し続け、政府による状況全容の方が、個人の評価よりも正しいと信頼すること。パニックを起こさず、可能な限り、日々の仕事をつづけること。

正統なデンマーク政府発令しない限り、動員中止や抵抗中止や動員開始の中断や戦闘中断などの命令に従わないこと。

誰もが、第5列活動や破壊工作を警戒すること。反国家活動を示唆するいかなる状況も、最寄りのデンマーク政府当局に通報すること。



パニックを起こさず、日々の仕事を可能な限り続けること

わが軍の準備及び移動は秘匿され、敵に情報を与えてはならない。電話や電報は過負荷になり、つながないことがあるだろう。しかし、通信途絶したというわけではない。重要通話は優先順が高く、通常通話より優先して、つながっているだけである。電話を使うときは、敵が盗聴していることを忘れないこと。

軍人及び民間防衛隊員は動員が発令されたり、我が国が攻撃を受けたときに、どこに配置されるか知っている。彼らが任地に到達するのを支援すること。

軍地方防衛隊及び婦人部隊を含む郷土防衛隊は、地方で任につく。指示に従うこと。民間防衛隊は人命を救助し、人々を助け、物的損害を抑える準備ができています。



国内の敵に警戒すること。疑わしい状況は最寄りの当局に通報のこと。

旧兵器と新兵器

爆弾と焼夷弾

爆弾と焼夷弾は従来の戦争から知られている。これらは今でも製造されており、新たな戦争でも広範囲に使用されると想定しなければならない。

新兵器に加える。我々はこれらの兵器の効果を知っていて、多くの場合、それらに対して自らを防護することが可能だと知っている。手頃な手段を、コミュニティと各人が取れば、民間人の被害は大幅に削減できる。教訓に従えば、現代戦争での生存可能性は大いに高まる。

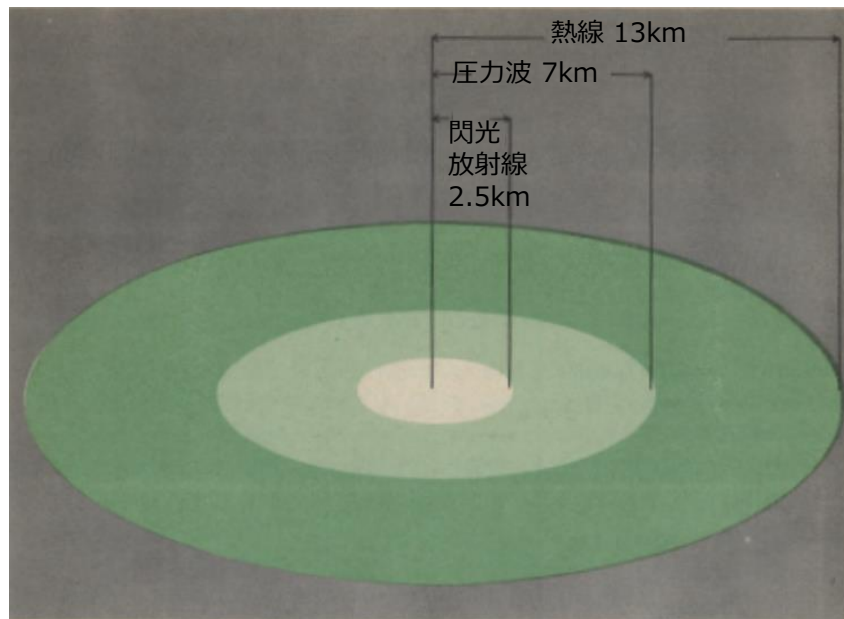
原爆と水爆

原爆と水爆（核兵器）は、戦闘で、航空機やロケットで投擲されたり、砲弾として使われたりする。

核兵器が爆発すると、眩い閃光が最大数秒間見られ、火球が形成され、地上からキノコ雲が立ち昇る。閃光で短時間あるいは長時間、眼が見えなくなる。しかし、最も重大な効果は以下の通り：

熱線 圧力波 放射能

熱線は光速(30万km/s)で伝播するが、その効果は距離とともに大きく減衰する。爆発地点のまわりでは、破壊は完全で、堅牢な建物でも、距離が離れていても被害を受けることがある。



1メガトン爆弾の熱線と圧力波と即時放射線の破壊力（8ページ参照）

閃光と熱線と圧力波は通常の爆弾や焼夷弾の爆発でも起きが、核兵器による爆発では、その効果ははるかに大きい。

核兵器の新たな効果は放射能（放射性原子核からの放射）である。これはX線治療で使われる線と同様であるが、死亡したり、世代を越えて、長期的な障害を与えるほど強力である。

即時放射線（爆発自体からの放射線）は光速で伝播し、ミリ秒しか続かず、急激に減衰するため、致死的效果は、ほぼ熱と圧力波による完全破壊領域に限られる。

核兵器の効果を上図と次頁の表に示す。核兵器の爆発力は、対応する爆発力を持つTNTの重量で示される。1列目は2000トンのTNTに対応する。

核兵器破壊半径

	2kt	20kt (広島)	1Mt	10Mt	50Mt
可燃物の火災と 防護されていない人 への第3度の火傷	1km	2.5km	13km	34km	70km
圧力波によるレン ガの建物の完全 破壊あるいは甚大 な被害	1km	2km	7km	15km	25km
防護されていない 人への致命的な 即時放射線(即死 するわけではない が)	1km	1,5km	2.5km	3.5km	5.5km

さらに、放射能は、土壌や塵やその他の粒子が爆発で上空に巻き上げられ、放射能を帯びて、風で広大な領域に広がる。それが放射性降下物である。これはまずもって、低空での核爆発で生じる。たとえ数百km離れていても、放射性降下物が来れば致命的に危険である。したがって、デンマークが直接に核攻撃を受けてなくても、放射性降下物からの放射線を避けるために避難する必要が生じるかもしれない。

放射性降下物は音もせず、臭いもなく、味もなく、感じることもできない。しかし、ときには微粒子として見る事が出来る。放射線は民間防衛や軍が装備する計測器で検知できる。放射性降下物からの放射線は次第に減衰する。核爆発から1時間は急激に、その後はゆっくりと減衰する。

爆発1時間後と比較して、放射線強度は以下のように減衰する。

1/2	7時間後	1/100	2時間後	1/1000	2週間後
-----	------	-------	------	--------	------

放射性降下物からの放射線は、避難場所に数週間とどまる必要があるほど強力な場合がある。

毒ガス

毒ガスは民間人には使用されていないが、様々な種類が生産されている。これらにはマスタードガス、神経ガスや、肺に十分な量が到達すれば致命的影響を及ぼすガスなどがある。しかし、マスタードガスや神経ガスは皮膚に触れただけで害を及ぼす。

マスタードガスは皮膚に水膨れを作る。障害は非常に緩慢にしか回復せず、しばらくの間は被害者は行動できない。マスタードガスはカラシやセイヨウワサビのような臭いがする。

神経ガスは皮膚を通して吸収されれば、微量でも死に至る可能性がある。臭いはない。

精神ガスは新たな毒ガスで、今後の戦争で使われる可能性がある。これは恐怖や幻覚や精神障害を起こすもので、一時知的に通常の行動がとれなくなるが、その後は症状は完全になくなる。

生物兵器

生物兵器は細菌やウイルスや多様な毒物である。人間や動物や植物が影響を受ける可能性がある。感染は食料や飲料水や接触や昆虫やネズミなどを介して広がる。

毒ガスや生物兵器は航空機やロケットで散布されたり、戦争前に破壊作業員によって散布される可能性がある。

警報と防護

民間防衛が備えていること

民間防護のすべては、個人にできることがあり、備えることが出来るという前提にかかっている。

皆さんは、たまには火事が起きたらどうするか考えたことがあるだろう。同様に、我々と家が戦争に巻き込まれ、戦争の被害を受けたらどうするか考えてみよう。

民間防衛は、人道組織であり、戦時に人々を助ける。民間防衛は備えてきた：

サイレンなどの手段で攻撃の脅威が迫っていることを民間人に警告する警報体制

都市部や農村部で災害時に人々を助ける補助サービス

地下室や離れや、その他の地下施設の中のシェルター

全大都市からの避難



警報

民間防衛信号

空襲警報：



音程が約1分間、上下する。攻撃の危険が差し迫っている。ただちにシェルターに避難する。

空襲警報解除：



約1分間の一定音

放射性降下物注意報：



6回の短いサイレン信号で、全体で約2分。教会の鐘を約15分と、同じくスピーカーから警報。放射性降下物が接近しており、注意報地域に到達する可能性がある。長時間、シェルターに留まる必要がある。さらなる指示を聞くためにラジオを聴く。

放射性降下物警報：



長短のサイレン信号の2回の繰り返しで、約3分間。スピーカー車両。放射性降下物が降り始めているか、数分以内に到達する。ただちに、長期間滞在するための必需品を持ってシェルターに入る。さらなる指示を聞くためにラジオを聴く。

その他の信号

動員：教会の鐘を3時間鳴らす

防衛警報：



高音階の一定音のサイレンを3回で、約1分。軍に対するもので、平時においても軍人の招集を意味する。

民間防衛補助サービス

災害時に都市部及び農村部で住民支援を行う民間防衛補助サービスは、おおよそボランティア支援と平時の教育に基づいている。これには以下がある：

- 1) 自己防護は民間人の自助を組織的に支援するものであり、以下がある：
 - a. 大半の農村部自治体は地区防護隊を組織する
 - b. 都市部周辺地域では家庭防護ボランティア隊が組織される。
 - c. 人口密集地域では、ブロック防護隊が組織される。
 - d. すべての大企業は企業防護隊を組織する。
- 2) 地方自治体補助サービスは全都市で組織され、以下がある：

消防サービス
テクニカルサービス
救急救助サービス
厚生サービス

3) 民間防衛隊は全国規模で組織され、被害地域の被害が大きく、自己防衛及び自治体補助サービスで対処できない場合に派遣される。民間防衛隊は最新の消防・救助・救急装備を持っている。

4) 救急車サービスの任身は負傷者を初動治療拠点に搬送し、そこから被災地の外の最終治療施設へ搬送する。

5) 非常時病院部門は病気および負傷者の治療にあたる。



民間防衛補助サービスは、災害時に都市部及び農村部で住民支援、特に消防・救急・救助に備えている。

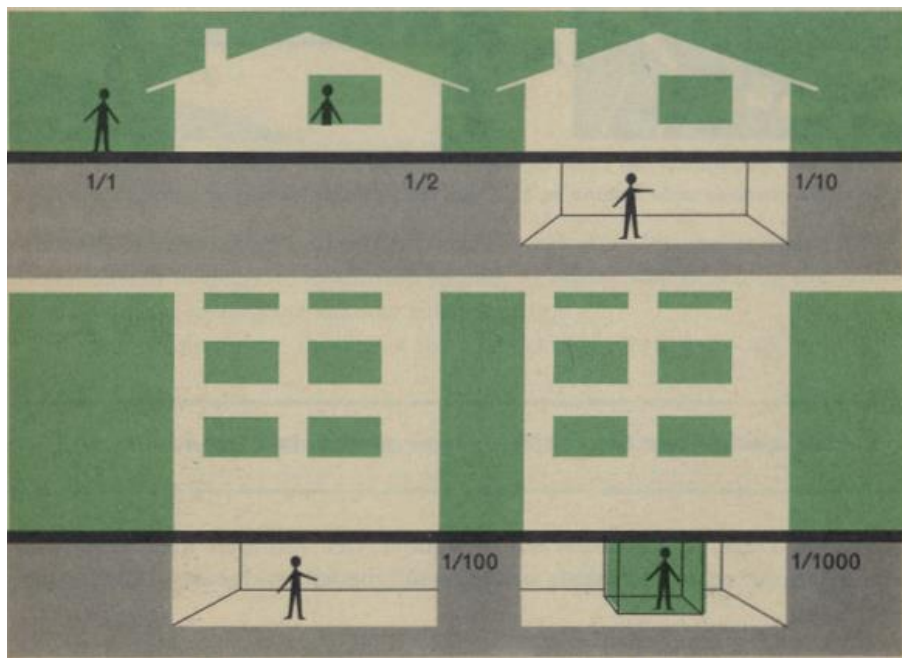
応急措置を学ぶ 消火器の使用法を学ぶ

民間防衛連盟にコンタクトする。ここは非政府団体や地域の消防署とともに短期訓練コースを実施する。

シェルター内部

シェルターは生存可能性を大きく高める

核攻撃の場合、爆心付近では効果的な防護は不可能であるが、シェルターに留まっていれば、いかなる場合でも、生存可能性は大きく高まる。専用シェルターは核兵器であれ通常兵器であれ、空襲の直接的効果に対して最良の防護となる。専用シェルターは長期滞在するには快適ではない。



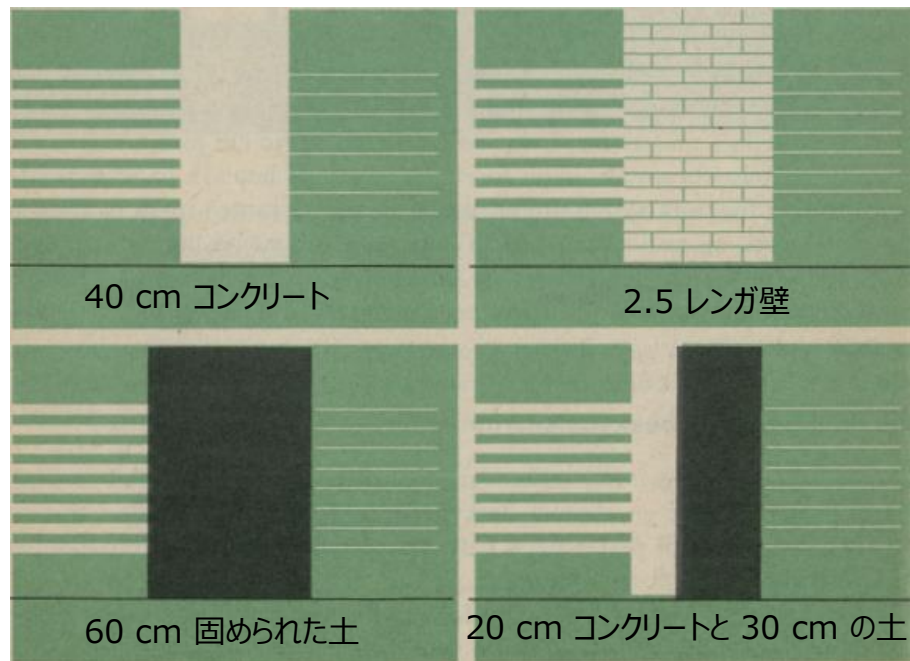
有害な放射線からの防護の程度。屋外で防護されていない場合から、大規模ビルの地下室まで。（15-16頁参照）

がしたがって、放射性降下物が検知されたら、建物のシェルターや地下室シェルターなど、住んでいる場所に応じた場所に避難する。

数日以上になるかもしれない滞在の不便に耐えられるように準備する最良の機会がある、救急箱や飲料水や暖かい衣服や、ラジオできればFMトランジスタラジオを持ち込むこと。

放射能から最も防護された場所

可能なら平時のうちに、自宅もしくは近くの地下室のシェルターを選定・準備し、長期滞在の備えをしておくこと。放射性降下物の放射線から部屋を防護するために、できるだけ深くすること。放射性降下物に対する防護は14頁参照。



放射線強度を1/100にするための、資材と厚さを示す。天井も同様に放射線から防護すること。この最寄りのデンマーク政府当局に通報すること。

屋外にいる人は放射線をすべて受ける。農家や家族向け戸建て1階建てなどの軽量の建物だと、放射線強度は屋外の半分になる。そのような建物の地下室だと1/10になり、大きな建物の地下室だと1/100になり、地下室内シェルターだと屋外の1/1000になる。

最も効果的な防護はその程度になるが、実践的には屋外の放射線の1/100になるような防護を狙う。

放射性降下物からの放射線に対する防護には、事実上、あらゆる物質が使えるが、軽い物質ほど、必要な遮蔽を得るための多くが必要になる。

屋外の放射線の1/100にまだ減衰させるためには、たとえば40cmのコンクリートか、55cmのレンガ壁（2.5レンガ壁）か、60cmの固めた土が必要である。同じ防護は異なる物質の組み合わせ、たとえば20cmのコンクリートと30cmの土でも得られる。

主として、地上に降り積もった放射性物質から放射線から防護するために、これらの防護手段が取られる。しかし、放射線は反射される、放射性降下物は屋根にも、建物の垂直の壁にも、木や低木の上にも、積もる。したがって、シェルターとして使うスペースの天井にも防護が必要である。

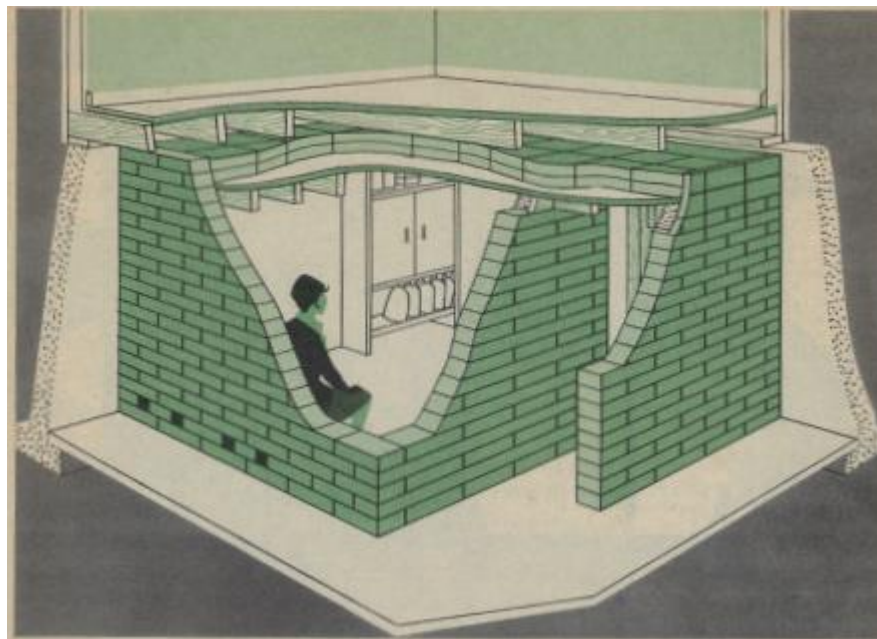
シェルターの種類

1950年以降、都市部の新しい建物に設置された、多くの民間シェルターは、地下あるいは半地下で、天井と外壁の要件を満たしていれば、既に放射線に対する合理的な防護手段となっている。



地下室のある堅牢ではない建物でも、このような地下室にシェルターを用意できる。

地上に出ている部分の外壁を土嚢などで防護する。シェルターの天井（木造の梁）は、地上部の床に土嚢を置いて強化・防護する。土嚢以外の資材も使える。



地下室シェルターは、地下室の中に壁で特別な部屋を作ること
用意できる。壁は、たとえば、中空のブロックで造り、あとで砂で隙
間を埋めてもよい。屋根の垂木の上の板の上にレンガを重ねてお
く。

地下室のない簡易な家では、屋内では十分に効果的な防護が
得られないことが多い。その場合の最後の手段は、屋外にシェル
ターを作ることある。これは特に郊外や、地下室のない家族向け
の新築のタウンハウスなどがあてはまる。



農場では、納屋や大きな建物の中心部に埋設することでシェル
ターを用意できる。窓や扉を放射線の塵や雨がはいるないように
十分に気密にできれば、放射線源から距離をとることができ、さら
に床をセメントにすれば、床も防護手段となる。この場合、建物
内の家畜やその他の動物の面倒をみることが出来る。これらの動
物は大量に放射線被曝し、短期間で死亡するかもしれない。し
かし、適時に動物を食肉処理すれば、肉は食べても影響しない。



専用シェルターは地下に作るのが望ましいが、土壌の条件が悪かったり、地下水位が高かったりした場合、地上あるいは半地下にせざるを得ない。

そのようなプリミティブなシェルターでも、通常兵器の爆発に対しては何らかの防護手段となる。天井を強化することで防護を強化できる。

あらゆる種類のシェルターについて重要なことは、部屋に放射性の塵が侵入しないように気密をはかることである。

このブックレットではこれ以上のガイダンス詳細を述べないが、政府は別途、農場や戸建て住宅などについてのガイダンスを発行する用意がある。

シェルターの備蓄

8日分の非常用品を用意する

数日間のシェルター滞在のため、非常用品を備蓄し、可能な限り、平時に各家庭で購入しておくこと。8日分の必要量は以下の通り：

保存可能 パッケージから冷たいままでも使える 持ち運び可能

たとえば、一人分だと、非常用品は以下の通り：

挽肉5缶 340g

ミートボール3缶 300g

クリスプブレッド2パック（3個入り） 200g

ビスケット3パック（3個入り） 250g

チョコレート8枚あるいは40g

レーズン1パック 340g

砂糖100g = 40個

食卓塩1缶

これらの食料品の価格は30～35クローナである。さらに、遊び用品も。乳児用に、ベビーフードやクッキーや砂糖やチョコレートなどを用意すること。缶切りも忘れずに。

少なくとも1週間分の飲料水、ひとりあたり約20リットルを備蓄すること。飲料水はいわゆるポリタンク（キャンプ用品）に保存するのが最善である。瓶を使う場合は少なくとも蓋をすること。ガラス瓶などを用いる場合は、簡単に壊れるというリスクを知っておくこと。

温水器のある家なら、世帯主は温水タンクを設置して、水道が止まった時に吸引力で空にならないようにし、直接に地下室に水を引けるか、平時に確認しておくこと。貯水には風呂や桶なども使える。最大の非常時に備え、汚染されないように、たとえばビニールなどで覆しておく。

折り畳みベッドや、（睡眠薬など）医薬品を入れた救急箱、できれば電池式の照明、非常用トイレ（バケツと消毒剤）、トイレトーパーと衛生用品、できればトランジスタ式のFMも受信できるラジオも必要だ。

最後に、子供用と大人用の気晴らし用品も考えて置く必要がある。



これに加えてシェルターには、非常用備蓄として、8日分の食料と飲料水を入れた容器が必要である。さらに、（消毒剤とトイレトーパーと）非常用トイレ、暖かい衣服、FMトランジスタラジオ、絆創膏、子供用と大人用の気晴らし用品も必要である。（32頁参照）

避難

自主避難と強制避難

全主要都市からの避難が準備されており、必要に応じて、脅威を受けた場合に実施される。

当局が女性や子供や老人や障害者の、田舎の家族や知人や別荘などへの避難を推奨する、自主避難の場合もある。



パニックな避難はあってはならない。避難は当局の指示に従って行われなければならない。全主要都市からの避難は準備されているが、確実に避難するために、田舎の家族や知人やその他の個人的手段も用意しておくこと。

自分自身で実行しなければならない場合がある。このため、自主避難が呼びかけられた場合に、どこへ行くか考えておくこと。

強制避難簿場合、指定時刻までに自宅を離れて、指定された道路で、指定された宿泊地域へ移動しなければならない、以下参照。

自主避難あるいは強制避難の意思決定がなされたら、スピーカーもしくはポスターなどの手段で、国民に通知される。

道路上の避難民は、特に敵の攻撃に対して脆弱である。ことともに、我が軍の移動の重大な障害となる。放射性降下物の移動方向だと、屋外にいることは危険である。

集合、支援、宿泊

避難対象都市では、集合地点が設定される。ここで避難民は都市地域を離れる前の支援を受けられ、自力で指定場所に移動できない人々には交通手段が提供される。しかしながら、国民の大半は自力で移動する必要がある。

当局は避難ルートを指定し、そのルートに沿って支援ステーションを設営し、避難民が短時間の休憩やケア、必要に応じて東急処置が受けられるようにする。

宿泊受入地の地方自治体では、民間防衛救援サービスが避難民を受け入れる。登録が行われ、一時的あるいは恒久的宿泊場所が指定される。これには学校や、集合住宅や、一般個人住宅などが割り当てられる。すべての人が避難民への宿泊場所の提供を義務付けられ、必要に応じて食事の提供も義務付けられる。

持っていくもの

避難民は、暖かい衣服やレインコート、身分証明書、現金、配給カード、寝袋、ナプキン、トイレトペーパー、3日分の食料（ドライフード）を持って行くこと。それにより、宿泊条件がどんなものであっても対応できるようにしておく。ただし、自分で運べないような量の物資を持って行かないこと。手提げカバンやバックパックなどに入れて、簡単に運べるようにしておく。荷物には住所と氏名を書いておくこと。（ブックレットの最後のページのメモを利用のこと）

攻撃を受けたら

ただちにシェルターや地下室を探す

わが軍事防衛と民間防衛が完全に動員され、警戒態勢に入っているにもかかわらず、警報が出る前に攻撃を受けた場合に備えなければならない。

現代の爆撃機は1分で20km飛行し、ロケットはもっと高速である。

運が良くても、攻撃の数分前に警報が出るだけである。国民は自分自身で判断して行動できなければならない。したがって、警報が出た場合も、予測できなかった場合も、攻撃を受けたとき、自分自身を守るために何ができるか、予め知っておく必要がある。

空襲警報が出たら、国民はただちにシェルターや地下室を探すこと。

シェルターに到達できない場合

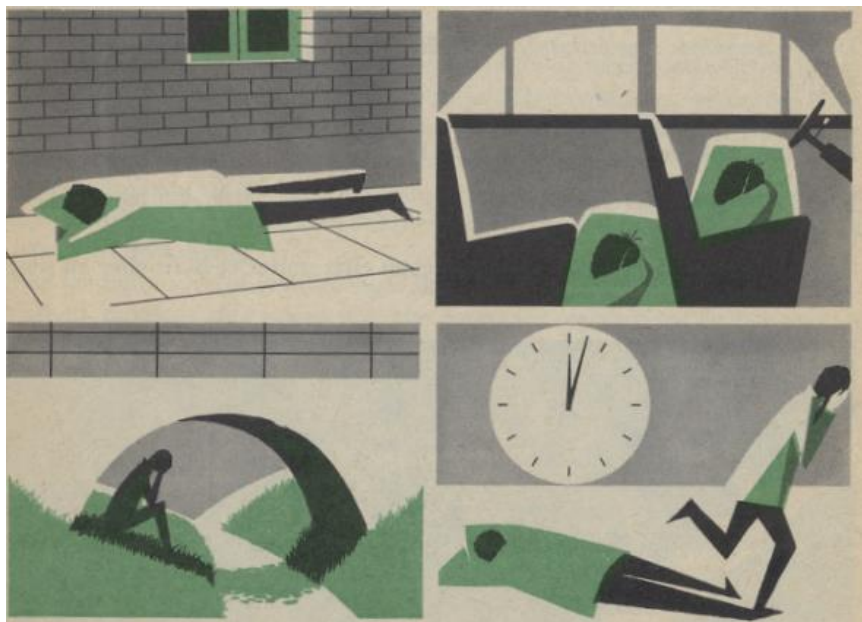
攻撃を受けたとき、屋内で防護されていない状況であれば、窓や壁にそって、床に伏せるか、テーブルやベッドの下に入る。



空襲警報が出たら、ただちにシェルターや地下室を探す。運が良くても、攻撃の数分前に警報が出るだけである。爆撃機は1分で20km飛行する。



攻撃を受けたとき屋内にいた場合、防護のない状態であれば、窓や壁に沿って床に伏せるか、テーブルやベッドの下に入る。顔や露出した肌を防護し、眼を閉じる。



攻撃を受けたとき屋外にいた場合、近くの窪みや壁の背後で地面に伏せ、顔や露出した肌を防護し、眼を閉じる。数分間そのままの状態にとどまり、その後、最も近いシェルターを探すか、助けを呼ぶ。

あるいは爆発や瓦礫やガラスの破片や、熱線や衝突などから防護できる場所へ移動する。顔や露出した肌を防護し、眼を閉じる。

屋外:

攻撃を受けたとき屋外にいた場合、近くの窪みや壁の背後で地面に伏せ、顔や露出した肌を防護し、眼を閉じる。数分間そのままの状態にとどまり、その後、最も近いシェルターを探すか、助けを呼ぶ。

瓦礫で動けない人々の救援と消火

留まっている場所か近くで、建物が崩壊したり、火災が起きたりした場合、もし自分が無傷で、放射性降下物が検知されていないならば、全力であらゆる手段で支援すること。これは消火と、閉じ込められている人々の救援の支援である。

救援を呼ぶ方法

被害が大きすぎて、周辺住民で対処できない場合、(救急車や消防やレスキューなど) 当局の救援を呼ばなければならない。都市部では、このために設置された、CFと特別に記された電話で呼ぶ。田舎では、行政区に連絡する。

放射性降下物に対して何をすればいいのか？

核兵器で攻撃を受けた場合、放射性降下物が降ることがある。放射性降下物警報が出るか、現地で検出されたりした場合、ただちに防護場所を探す。できれば、自宅かその近くの地下室で、事前に放射性降下物対策がなされているものが望ましい。

爆心近くであっても、放射性降下物が到達するまでには5～15分程度かかる。遠くにいる場合は、数時間かかるので、防護場所を探し、数日分の必需品を集められる。放射性降下物は特に肺や胃に入れば危険である。すぐに屋内に入れない場合は、鼻や口をスカーフで抑える。

屋外にいて、放射性の塵に被曝したと疑われるときは、十分に洗い落とし、シェルターに入る前に、きれいな服に着替えと靴を履き替える。放射性の塵に触れていないもののみ食べ、飲むこと。

放射能は煮沸しても火を通して消えない。

缶詰食品や瓶詰飲料は、容器に放射性の塵がついても汚染されない。ただし、食品や飲料は包装を開ける前によく洗うこと。放射性の塵に汚染されたと思われる衣服やその他の物は、人からできるだけ遠ざけるか、埋める。

危険がなくなったか、何らかの指示が出るまでは、シェルターに留まること。



放射性の塵が付着した場合、シェルターに入る前に、十分に洗い、衣服を着替え、靴を履き替えること。（図上）缶詰食品と瓶詰飲料は放射性の塵から防護されているが、開けるときは十分に注意すること、ビニール袋も防護に役立つ。

農場主と放射性降下物

農場主は家族の防護のみならず、家畜や作物の防護も考える必要がある。農場主はしたがって、家畜の餌と水の適切な備蓄を確実にしなければならない。

放射性降下物が到達した場合、動物は屋根のある場所、できれば家畜小屋に留め置かなければならない。扉や窓を防護し、外壁は厚さを土や土嚢で増強して放射線の影響を削減しなければならない。乳牛は最も防護された場所に置く。飼料が不十分な場合も牛乳が農場主の家族にとって重要な場合、一頭以上の乳牛を優先して餌を与えること。



農場主は、家畜や作物の防護も考える必要がある。家畜は放射線対策をした屋内に留め置くこと。

農場主はしたがって、家畜の餌と水の適切な備蓄を確実にしなければならない。家畜の餌と水を十分に備蓄しておくこと。防護できない場所にある飼料は、ずだ袋などで防護すること。

家畜小屋や屋根のある場所におけない動物は、可能な限り最良の防護を行う。たとえば、樹木の下におき、餌や水もそこに置く。屋外の食料は、防水シートやズダ袋などで防護する。

毒ガスや西武兵器からの防護

可能性は小さいが、毒ガスや生物兵器による攻撃もありうる。したがって、警報体制や一般的な防護対策のない、この種の攻撃に対しても計画をしておく必要がある。

毒ガス香華kいでは、毒ガスに汚染された空気の吸入や皮膚への付着を避ける必要がある。

ビニールシートはある程度の皮膚の防護になる。普通の地下室やシェルターも、扉や窓布付近の開口部やヒビなどに対処してあれば、毒ガス防護になる。

吸入に対する防護にはガスマスクが必要となる。

感染症の形で起きる生物兵器戦争に対する最も重要な防護は、個々人の衛生対策や、水の煮沸や食品の加熱や、他人との接触をできるだけしないようにすることである。

動員

軍事防衛だけではない

動員は、過去には、平和維持軍事力を総動員体制に移行するものだとして理解されていた、しかし、今日、動員は民間防衛や、民間社会の大きな部分まで広がり、これらは敵の攻撃とその影響に打ち勝つ精力的な準備をしなければならない。

軍事防衛および民間防衛の動員対象者は集合場所を知っておく必要がある。

同様に、鉄道や郵便や電話や電力やその他の社会に重要な分野では、企業の運営を継続するために、特別な集合規定が設定される。

それ以外の人々は、当局からの別命があるまでは、まずもって、日々の職務を継続し、可能な限り動員された人々の分を補うこと。職場での精励は、軍事防衛と民間防衛に非常に重要であり、社会の機能全般を適切に機能させるものである。

大きな努力と大きなチャンス

これが国の独立を維持するのに役立つだけでなく、自分と家族が今まさに耐えようとする危機を乗り越える可能性を高めることにも役立つと考えて、怒りやパニックを押さえて、日々の仕事の努力を継続し、好ましくは強化すること。

知恵と熟慮と自律を基礎として考え、行動する人々は、生き残る可能性が最も大きい。

非常用備蓄庫に備蓄するもの

平時に買っておくもの	チェック
8日分の非常用品	
8日分の食品と飲料水	
さらに長期間シェルターで過ごす場合：	
暖かい衣服、寝袋、毛布など	
トレイ用品	
ラジオ、できればFMトランジスタラジオ	
救急キット	
医薬品（睡眠薬を含む）	
ゲームや本など気晴らしするもの	
このブックレット「戦争が起きたら」	

21頁参照

シェルターに置くもの

シェルターに以下があるか	チェック
家族全員の椅子や寝台	
非常用トイレとトイレトペーパー	
洗面器と石鹸とタオル	
非常用照明、できれば電池懐中電灯	

非常用備蓄庫は、シェルターのある部屋の中あるいは外にあって、シェルターからすぐに到達できる場所にあること。2頁参照。

避難のとき、持っていくもの

避難のとき、持っていくもの

避難のとき必ず持っていくもの	チェック
暖かい衣服、寝袋、毛布など（非常用備蓄庫から）	
トレイ用品（非常用備蓄庫から）	
非常用品（ドライフード）3日分（非常用備蓄庫から）	
レインコート	
身分証明書	
現金	
配給カード	

パニックを起こして脱出しないこと。当局の指示に従うこと。
集合地点、支援ステーション、宿泊場所がある。
自分で運べる以上の物資を持って行かない。
荷物には名前と住所を書くこと。

23頁参照